

TOKAI VILLAGE TOKAI VILLAGE TOKAI VILLAGE



いいムラをつくらう
とうかいむら

まちづくりの 羅針盤

～“いいムラ”のデザインと実現～



東海村
Tokai Village

I 新たな計画のあらまし ～新たなカタチと込める思い～

(1) 計画の名称

まちづくりの羅針盤 ～“いいムラ”のデザインと実現～

(2) ミッション・ビジョン・バリュー

「まちづくりの羅針盤」の策定にあたり、新たな試みとして、庁内での議論に加え、村民の意見などを踏まえながら、「ミッション・ビジョン・バリュー」の考え方を取り入れました。これらの概念は、社会の中で組織の存在意義を示すもので、組織の一員にとっては仕事をする上で拠り所となるものです。

本村のミッション・ビジョン・バリューは以下のとおりです。

Mission

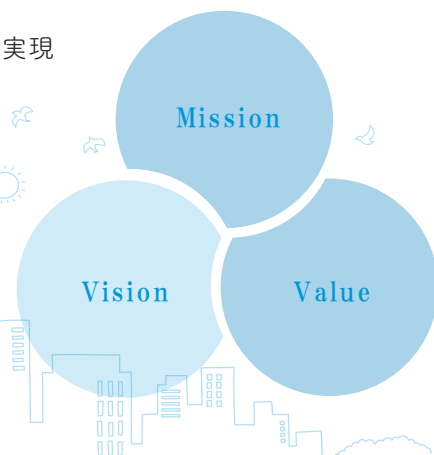
ひとり おも だれ しあわ つく
一人ひとりの“想い”をつなぎ 誰もが“幸せ”になれる「いいムラ」を創る

Vision

1. こども・わかものが活躍する、住みごちのよい・暮らしやすいまちの実現
2. 新たなにぎわいを生み出す都市基盤のデザインとまちなみの整備
3. 誰もがデジタル技術を活用し利便性を享受できるDXの推進
4. 多様性を基本とする防災対策と心身ともに安心して過ごせるセーフティネットの構築

Value

語り合い 通じ合う心を大切にします。
共に挑戦し創り上げる心を大切にします。
今と未来のためにみんなが行動します。

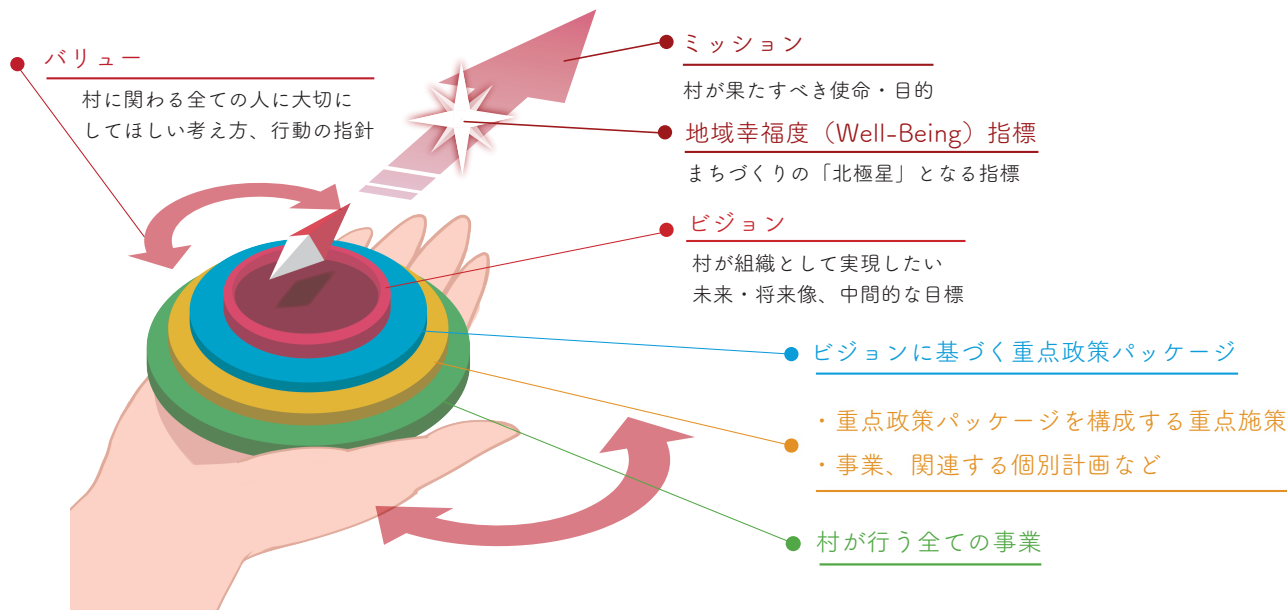


新たな計画では、ミッション、ビジョンを定め、バリューに基づく行動によって達成される計画のあり方を「羅針盤」をモチーフにして表します。

本村の進むべき方向性を示す「北極星」となる指標として、「地域幸福度 (Well-Being) 指標」を設定し、地域で暮らす人々の幸福度を高めることをめざしてまちづくりを進めます。

また、羅針盤を持つ手は、村民・事業者などを含めた村の全ての主体を示しており、「幸福度の向上」という終わりのないミッション(使命・目的)を果たすために、バリュー(行動の指針)を常に思い描き、北極星である幸福度の向上をめざし進んでいきます。

また、羅針盤の“針”がのっている土台は、ビジョン(中期的な目標)やビジョンを達成するための重点政策パッケージとそれらを柔軟に見直しながら、常に現在地を確認し、歩みを進める様子を表しています。



「まちづくりの羅針盤」実現のための取組み

～目標と4つのビジョン～

新たな計画「まちづくりの羅針盤」では、目標に地域幸福度（Well-Being）指標を活用することで、村民の幸福度を可視化し、計画の推進によりその向上をめざします。

各ビジョンには、それを達成するための重点施策・事業群で構成される「重点政策パッケージ」を設けます。

幸福度の向上

幸福度の向上目標

令和11（2029）年度に、幸福度7.0（平均値）を上回る。

幸福度の基準値

令和6（2024）年度の幸福度 7.0（平均値）

※幸福度の基準値は、令和6（2024年度）の本村の個別調査結果に基づきます（令和6（2024）年10月29日時点）

ビジョン1（テーマ「人口減少対策」）



こども・わかものが活躍する、
住みごこちのよい・暮らしやすいまちの実現

Our Action! [ビジョン実現のための方向性]

- 1 環境面と経済面から応援する出産・子育て支援
- 2 こども・わかものの声を聴き、まちづくりに反映するしくみと経済的支援
- 3 シビックプライドの醸成と、住み続けたい・いつかは戻ってきたい・住んでみたいと思える環境整備

ビジョン2（テーマ「新たな基盤整備」）



新たなにぎわいを生み出す都市基盤のデザインと
まちなみの整備

Our Action! [ビジョン実現のための方向性]

- 1 それぞれの地域の特徴に合わせた基盤整備の推進
- 2 “利用者目線”を重視した、満足度や快適性の高いインフラ整備への転換
- 3 地域の発展やにぎわい創出のために活躍する人材への支援

ビジョン3（テーマ「DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進」）



誰もがデジタル技術を活用し利便性を享受できる
DXの推進

Our Action! [ビジョン実現のための方向性]

- 1 より良い暮らしにつながるDX（デジタルトランスフォーメーション）の実現
- 2 地域コミュニティでのデジタル技術活用が“あたりまえ”となる社会の実現

ビジョン4（テーマ「安全・安心の確保」）



多様性を基本とする防災対策と心身ともに安心して
過ごせるセーフティネットの構築

Our Action! [ビジョン実現のための方向性]

- 1 「激甚化」と「頻発化」を考慮した防災対策
- 2 個別の事情に合わせた災害時情報伝達手段や避難環境の整備
- 3 “安心感”が持てる社会的セーフティネットの構築

みんなの力で Let's Act! — 村民・事業者なども含めた村全体の取組みの方向性 —

Village Action! — 村（行政）が行う施策・事業の方向性 —

それぞれのビジョンには、重点政策パッケージにおける各種の施策・事業の推進の参考とするため、地域幸福度（Well-Being）指標を構成するカテゴリーの中から適切なものを選定・設定し、取組みの進み具合を測っていきます。

また、重点政策パッケージには「Our Action!（ビジョン実現のための方向性）」、「みんなの力で Let's Act!（村民・事業者なども含めた村全体の取組みの方向性）」、「Village Action!（村（行政）が行う施策・事業の方向性）」を示し、村全体で取り組む姿勢を表しています。

Ⅲ 計画の推進に向けて ～柔軟な見直しと広聴～

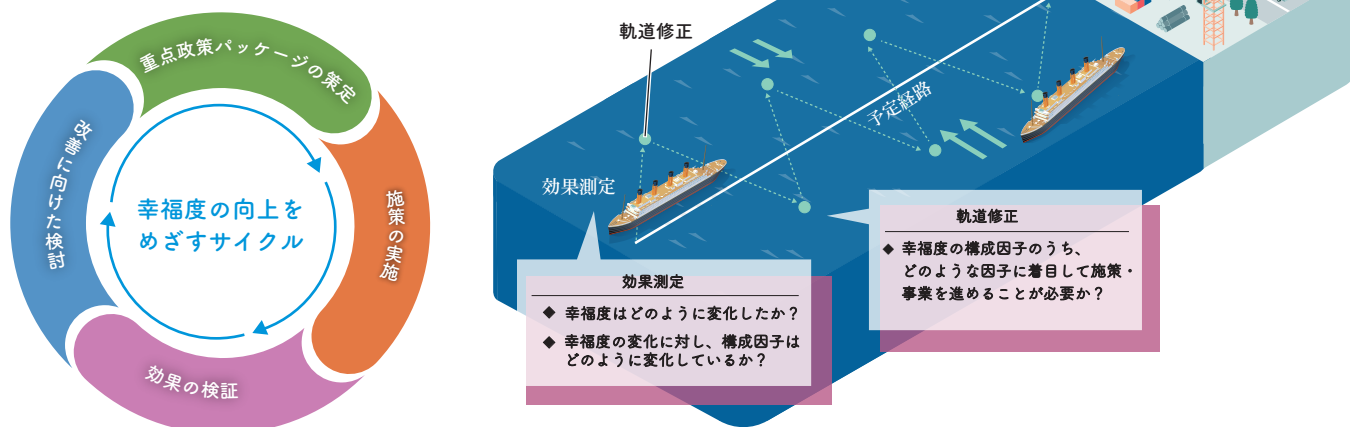
(1) 幸福度向上をめざすアジャイル型の政策形成

本村では、重点政策パッケージの策定(Plan)、施策の実施(Do)、効果の検証(Check)、改善に向けた検討(Act)というPDCAサイクル※¹を基本形とします。

「まちづくりの羅針盤」では、地域幸福度(Well-Being)指標を定期的に測定し、4つのビジョンの進捗を確認するとともに、対象のカテゴリーを構成する因子についての分析を行います。

分析の結果を踏まえ、各種施策の方向性を再検討することで、計画の推進を通じた幸福度の向上のため、PDCAサイクルを着実に回すとともに、より機動的で柔軟な行財政運営を進めます。

地域幸福度(Well-Being)指標を活用した「アジャイル型の政策形成」※²のイメージ



※1: Plan(計画)、Do(実行)、Check(評価)、Act(改善)という一連のプロセスをくり返し行うことで、業務の改善や効率化を図る手法のこと。

※2: 「アジャイル」は、英語で「敏しょう」「素早い」という意味。

スピーディーに政策サイクルを回し、モニタリング・効果検証をしながら、柔軟に政策の見直し・改善を行っていく政策形成と評価のあり方のこと。

(2) 計画の進行管理

	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
広聴	村民アンケート	日常の対話	日常の対話	アンケート公表
外部機関		総合計画審議会		
行政	事務事業の評価	東海村地域戦略推進実行本部(随時)		予算や実施計画への反映

スケジュールは年度によって変更になる場合があります。



<編集・発行> 東海村

〒319-1192 茨城県那珂郡東海村東海三丁目7番1号

電話番号: 029-282-1711(代表)

